

日	月	火	水	木	金	土
				1 仏滅 一粒万倍日 さる	2 大安 とり	3 赤口 いぬ
4 先勝 る	5 友引 ね	6 先負 うし	7 仏滅 三りんぼう とら	8 大安 寒露 う	9 赤口 たつ	10 先勝 み
11 先負 一粒万倍日 三りんぼう うま	12 仏滅 スポーツの日 ひつじ	13 大安 さる	14 赤口 一粒万倍日 とり	15 先勝 七五三（北海道） いぬ	16 友引 る	17 先負 伊勢神宮神嘗祭 ね
18 仏滅 一粒万倍日 うし	19 大安 とら	20 赤口 う	21 先勝 たつ	22 友引 み	23 先負 霜降 一粒万倍日 三りんぼう うま	24 仏滅 ひつじ
25 大安 さる	26 赤口 一粒万倍日 とり	27 先勝 いぬ	28 友引 る	29 先負 ね	30 仏滅 うし	31 大安 とら

神無月

〔かなづき〕 令和 8 年 10 月

古くから日本中の神々が出雲大社（島根県）に集まると信じられていたの
で、出雲以外の神社には神様がいない
になってしまうという意味があります。

発行：北海道神社庁一區教化委員会

人 多 人の中にも 人はなし
人になれひと 人になせひと
詠人不知・金玉詞林

今月のことば

人 多 人の中にも 人はなし
人になれひと 人になせひと
詠人不知・金玉詞林

人は神の子として生命を受けてゐる。人の
人たるは神の子としての自覚を持ち、神の心
を心として生きるにある。神家尊重といひ、
個性發揮といふが、いづれもそれは本来の力
―天賦の（神から頂いた）人権を伸ばすにあ
る。その謂は本来の自己、神の子たり使命を
自覚認識するところに、意味を持つてくる。
自ら神の子たる自覚するだけではなく、他
をしてそれを自覚せしめることによつて、こ
の世は自他ともに神ながらの姿となり得る。
これが「人になれひと、人になせひと」であ
つて、信仰は自分が救はれるだけで満足すべ
きではなく、隣人、更には万人を救ふといふ
悲願に燃えることによつて、一そう大きな道
となり得る。

（神道百言 一般財団法人神道文化会編より抜粋）

季節のまつり

千歳 十月十五日
七五三祝

七五三の祝は、「七歳までは神の子」と
いわれた時代に、三歳の男女児が髪
を伸ばしはじめる「髪置」、五歳の男
児がはじめて袴を着ける「袴着」、七
歳の女児が大人の帯を着けはじめる
「帯解」の儀式に由来します。子供の
心身の成長の節目にあたる縁起の良い
奇数の歳に、氏神様にお参りし、無事
成長したことへの感謝とこれからのご
加護をお願いします。

十一月十五日は「鬼宿日」、つまり
鬼が歩かず自分の家にいるため一年
で最良の日とされていたことや、霜月
参りで氏神様を山に送り出す日に当た
っていたことから、この日が七五三の
お祝いの日に決められたと言われてい
ますが、北海道では気候の関係から、
一ヶ月早い、十月十五日に行う習慣が
あります。

神嘗 十月十七日 伊勢神宮神嘗祭

天皇陛下が新穀を伊勢の神宮に献る
一年中で最も重要な祭りです。外宮で
は十月十五日の夕と十六日の朝に由貴
大御饗を供進し、十七日は勅使が参向
します。内宮では、十月十六日の夕と
十七日の朝に由貴大御饗を供進し、十
七日は勅使が参向します。
神宮では六月・十二月の月次祭と神
嘗祭の三祭を三節祭と呼び、最も大切
な祭りです。

かみありづき 神在月とは？

十月は神無月で、出雲は神々が集ま
られるので神在（かみあり）月だとい
う信仰が今もあります。またカンナヅ
キは神を祭る『神の月』だとか、神酒
醸造のための「醸成月（かみなしづ
き）」だという説等は、いづれも篤い
信仰を物語ります。そして刈上祝いに
直結する秋祭りこそは、年間最大の賑
わいを呈します。

早春以来、豊作を祈り続けた農民の
心に満足がもたらされると歓喜の表現
をするのは当然であって、この方法を
日本は古代から「神在月」の祭りをあ
らわして来ました。人々の心は祭りに
結集し、祭りは日本人の心を培うとい
う相関関係が繰り返されてきました。
そのため祭りの繰返しが途切れること
は、最も重大なことが断絶されること
に繋がる恐れがあります。

えいとてんべん 栄枯天変

人の境遇が、栄えたり衰えたり、
移り変わることを。



木槿 (むくげ)

参考文献

『日本人数のしきたり』飯倉晴武（青春出版社）
『くらしと祭り百話』小野迪夫（神社新報社）

二十四節気

【寒露 かんろ】：八日

旧暦九月戌の月の正節で、このころになる
と、五穀の収穫もたけなわで、農家ではこと
のほか繁忙を極めますが、山野には晩秋の色
彩が色濃く、朝晩は肌がそぞろ寒気を感じは
じめるようになります。寒露とは、晩秋から
初冬にかけて野草に宿る露のことをさします。
【霜降 そうこう】：二十三日
旧暦九月戌の月の中気で、秋も深まり、早
朝など、ところによっては霜を見るようにな
り、冬の到来が感じられます。

六曜・選日

【六曜】
【先勝】…諸事急ぐことによし、午後よりわるし
【友引】…朝夕よし、正午わるし、葬式を忌む
【先負】…諸事静かなることによし、午後大吉
【仏滅】…万事凶、思えば長びくおそれあり
【大安】…何事をするのにも吉日、大吉日
【赤口】…諸事油断すべからず、正午のみ吉
【選日の吉】…三隣亡日、普請始め、棟上大吉日
【三りんぼう】…出資・投資・購入、新規事業開始
婚姻は吉、借りる、離別凶

【二粒万倍日】…三隣亡日、普請始め、棟上大吉日

七十二候《10月》

霜 降

初候・霜始降（しもはじめてふる）
次候・雲時施（くもときどきふり）
末候・楓葉黄（もみぢのきはぬ）

寒 露

初候・鴻雁来（こうがんきたる）
次候・菊花開（きくのはなひらく）
末候・蟋蟀在戸（せせりすはとあり）

いぬ 安産祈願 10月の戌の日

3日 (土)
15日 (木)
27日 (火)

*戌の日以外でも安産祈願のご奉仕をして
おります。神社にお問い合わせください。



祝祭日には国旗を
掲げましょう